

# 宇部興産中央病院 広報紙

## たんぽぽ



2022年1月

Vol104号

### 地域連携室のイメージ花「たんぽぽ」

たんぽぽの花ことばは「真心の愛」「明朗な歌声」幸福を知らせる花、綿毛が地域連携の歌声です。自ら風にのり、地域の中に飛んでいき、地域に医療連携の種子を広げていく…そんな思いを込めた広報紙です。



### 【病院理念・方針】

いつでも誰でも安心してかけられる中央病院  
常に使命感を持ち協調して行動する中央病院

- 一、医の倫理と良心に従い、より良い医療の提供と医療安全に努めます。
- 一、患者さんの生命の尊厳と権利を尊重し、患者満足度の向上に努めます。
- 一、地域の中核病院として関係する地域医療・福祉機関との連携に努めます。
- 一、経営の健全化と職員満足度の向上に努めます。

発行：地域医療支援病院

医療法人社団

宇部興産中央病院 地域連携室

宇部市大字西岐波750番地 TEL (0836) 51-9421

印刷：重度障害者多数雇用事業所 (有)リベルタス興産

## 新年あいさつ

院長 清水 昭彦



明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染2年目となり、2019年に続いてその対策に追われました。しかし、職員のワクチン接種、高齢者のワクチン接種、一般のワクチン接種と続き、東京オリンピックも無観客の中ではありますが、無事開催され、やり遂げました。感染第5波も10月ころからは収まってきて、職員も患者さんも多少心が落ち着き始めました。さらに、11月になると全国的に感染者数が減少してかなり明るい状況が見えてきました。山口県、宇部市においては感染者数0の日が続いて、精神的安堵が得られました。ただ、これを書いている11月末には新型の変異株（オミクロン）の報告が全世界を駆け巡り、今後が心配です。何とかこのままで収まって、新しい抗ウイルス薬が登場して、感染パンデミックの終焉が近づけばと願っています。

当院は耐震工事や病棟再編の増改築は完了しましたが、老朽化した施設も多く、色々と修理・改修が続いています。従来は、分散していた地域連携室・入退院支援室・医療福祉相談室を旧画像診断室に移設し、患者サポート機能の連携を充実させました。医事課の前には大きなディスプレイ画面を取り付けて色々な情報を患者さんに届けられるようになりました。自動精算機も昨年11月29日から2台稼働して、患者さんの待ち時間が短くなったようです。色々と新しい設備が登場してきて、少し楽しくなる感じです。ここまでこられたのは、コロナ禍で地域住民の皆様方へ安心を届けようと努力してきた職員一同の賜物と思っています。

最後に、今年の干支は寅です。宇部興産中央病院職員一丸となってコロナ禍を抜け出し飛躍する年になることを心より祈念しています。



## 新年を迎えて

看護部長 上田三千代



新しい年は、何事にも「トラ」いする年にいたします。

2021年を振り返りますと、コロナワクチン接種や三密を避ける行動が定着したおかげで、明るい光が差してまいりました。また、コロナ感染症と闘う医療者に、たくさんのエールが届けられ、我々も勇気をいただいた年でした。

宇部興産中央病院は、地域の方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるように努めております。そのために看護師は患者さんに寄り添い、患者さん中心の医療が提供できるようチームと連携しながら行動してまいります。

「虎穴に入らずんば虎子を得ず」で、挑戦してまいりましょう。それには、健康が大切です。定期健診や早めの受診を忘れずに！

2022年が素晴らしい年になりますようにお祈り申し上げます。

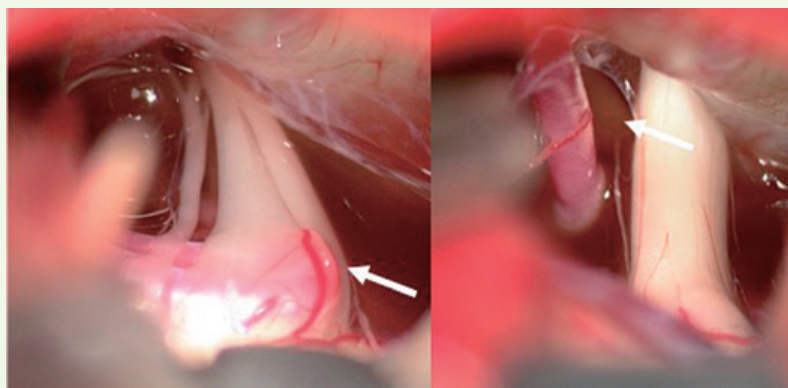




## 「三叉神経痛・顔面けいれん」

副院長 脳神経外科 西崎 隆文

当院には「三叉神経痛・顔面けいれん」の特殊外来があります。今回これらの病気について説明します。「三叉神経痛」は頬・下顎・ひたいの片側に痛みがおこる病気です。突発的で数秒くらいの電気が走るような強い痛みで、常に同じところが痛みます。痛みのまったくない時間帯があるのも特徴です。洗顔、歯みがき、化粧、ひげそりをすると痛みが誘発され、食事がとれなくなる人もいます。脳のMRIでは血管が三叉神経を圧迫しているのが観察できます。まれに脳腫瘍による神経圧迫が原因となることもあります。三叉神経痛と同じような痛みをきたす病気に、帯状疱疹後の三叉神経痛があります。帯状疱疹の感染初期には皮膚症状が出ず、また痛みの性質からは区別できないことも少なくありません。これまで顔に帯状疱疹が出たことがなかったかを思い出してもらうことが診断の手がかりになります。このほか群発頭痛、副鼻腔炎、顎関節症も三叉神経痛と間違えられることがあります。群発頭痛も片方の眼の奥に激しい痛みを起こしますが、三叉神経痛よりも持続時間が長く、痛みのある側に涙や鼻みずが出るのが特徴です。また三叉神経痛では、5分以上痛みが続いたり、顔の真ん中や両側が痛むことはありません。その他、脳の血管が舌咽神経という脳神経を圧迫して生じる「舌咽神経痛」という、三叉神経痛に似た、とてもまれな病気もあります。片方の喉の奥に痛みが走り、ものを飲み込むときに誘発されます。三叉神経痛の初期にはカルバマゼピンがよく効きます。8割くらいの方は痛みが消失あるいは改善します。しかし徐々に薬の量が増えて肝機能障害、ふらつき、皮疹などの薬の副作用で継続できなくなることがあります。ときに神経ブロック療法や定位放射線治療が行われますがその効果は短く、顔のしびれが出てしまうことがあります。「顔面けいれん」は片側のまぶた、頬、口元がぴくつく病気です。自分の意思とは全く無関係におこり、ストレスや緊張などで誘発されることが多いです。急にまぶたが閉じたままになって、車の運転など、日常生活に支障をきたすことがあります。MRIでは顔面神経が脳幹から出るところ (root exit zone: REZ) が血管に圧迫されているのが確認できます。ボトックスという毒素を直接顔に注射し筋肉を麻痺させる治療がありますが、薬の効果が切れればまた症状が出てきます。



三叉神経痛の症例。ループした血管(矢印)が三叉神経を強く圧迫している(左図)。血管を移動させると神経がまっすぐに正常化(右図)。痛みは消失した。

「三叉神経痛・舌咽神経痛・顔面けいれん」はいずれも、薬を飲んでも症状が良くならなかつたり、薬の副作用が強い場合に手術を考えます。手術は微小血管減圧術(通称ジャネットタの手術)と呼ばれます。全身麻酔で、耳の後ろの皮膚を毛髪の生えぎわにそって6cm切開し、頭蓋骨に五百円硬貨くらいの穴を開けます。神経を圧迫している血管を見つけて、神経に強くあたらないよう血管を移動して減圧します。3時間程度の手術です。小さな開頭で多数の神経・血管が集まる脳幹部を扱うデリケートな手術ですが、三叉神経痛の場合、国内ではこの手術に経験豊富な術者の場合は90%以上の方で痛みが消失したと報告されており、当院でも93%の方が術後に痛みが消失しています。顔面けいれんの手術による改善率は8割とされていますが、最近では術中モニタリングが発達し、手術のときに顔面筋の異常活動波が消失するのを確認できるようになり、手術成績はさらに向上しています。

# The European Society of Regional Anaesthesia and Pain Therapy, Annual Congress 2021 最優秀演題賞 受賞

麻酔科 吉村 学

今年9月にThe European Society of Regional Anaesthesia and Pain Therapy annual congress 2021において最優秀演題賞を受賞させていただきました。新型コロナウイルスの影響でオンラインでの発表となりましたがこのような賞を受賞でき嬉しく思います。

全国のDPCデータを利用して全身麻酔に神経ブロックを施行した方が神経ブロックをしない方に比べて術後せん妄が有意に減少することを傾向スコアを使用して証明いたしました。当院は術後鎮痛のために神経ブロックを積極的に行っており、患者さんのためにこの結果が役立つことと思っております。

最後になりましたがデータ入手にご尽力いただいた総務課、データ整理に協力いただいたシステム課の皆様、ご指導いただいた麻酔科の森本先生に感謝申し上げます。今後とも皆様のお役に立てるように日常診療に取り組んでまいりたいと思っております。



## 第125回日本内科学会中国地方会 Junior Resident Award 受賞

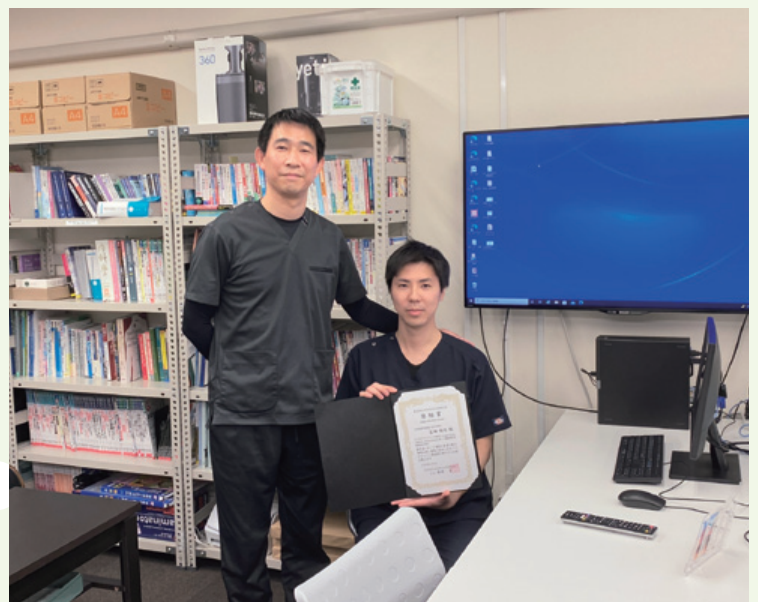
演題「イプラグリフロジン内服中にeuglycemic diabetic ketoacidosisを来した高齢者2型糖尿病の1例」

研修医 富田 周作

今年11月に行われました第125回日本内科学会中国地方会でJunior Resident Awardを受賞させていただきました。初めての学会発表でこのような賞を頂くことができ、大変光栄に思います。

SGLT-2阻害薬はその有用さから糖尿病だけでなく心不全でも使用が増えつつある薬剤ですが、副作用としてのeuglycemic DKAの報告はまだ多くはありません。今後報告が増えるとともに注目が高まると予想されるトピックであり、今回のタイミングで本症例を発表できたことは非常に意義深いことと考えております。

自分自身、考えをまとめて発表することに苦手意識を感じていましたが、公式の場で結果を残せたことで一歩前に進むことができました。今回の経験を今後の日常診療にも活かしていけたらと思います。最後になりましたが、発表の準備から予演まで、熱心にご指導いただきました齊藤先生、井本先生に感謝申し上げます。



受賞した富田周作研修医（右）と指導された齊藤医師



## 第13回スキルアップセミナーを開催

救急現場の第一線で活躍されている県内の救急救命士のレベルアップに資する狙いから、宇部興産中央病院と宇部・山陽小野田・美祢・萩地域メディカルコントロール協議会の共催で開催、今回が第13回となりました。昨年はコロナ禍で中止、今年は感染拡大防止のため、宇部・山陽小野田・美祢・萩の救急救命士の方に限定し、70名の方に参加をいただきました。

第一部は、教育講演として「救急外来で診る頭蓋内疾患」をテーマに当院の脳神経外科医長の島袋太一先生から、疾患を分類してわかりやすく説明があり、次に症例発表として「労働災害で出勤し、バイスタンダーによるAED使用及び有機化合物による暴露が判明した症例 ～ドクターカー隊による判断～」をテーマに宇部山陽小野田消防局の北谷貴志救急救命士より発表がありました。

また、第2部は「プレホスピタルケアの充実ー現場活動力向上を目指して」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、救急現場に密着した充実した研修となりました。

来年こそは、県内全域の救急救命士が参加できるよう、コロナ感染が終息することを願うばかりです。



第1部 島袋太一先生 教育講演



第2部 パネルディスカッション

## 病院の環境整備をしました



障害者用駐車入口に看板を設置



送迎エリアに看板とベンチを設置



ブロック塀からフェンスに変更

## 2021年11月29日(月)より自動精算機を導入しました

当院ではお支払い時の「待ち時間短縮」のため、自動精算機を導入しました。

現金のほか、各種クレジットカードがご利用いただけます。

※操作方法などのご不明な点は遠慮なくお近くの職員におたずねください。



## 第57回 糖尿病週間行事

2021年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続き食事会や講演会は行わずに、糖尿病チーム(医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士)が各専門分野のポスターを作成し、11月1日から15日まで掲示しました。



## 労働組合 病院支部企画 Webセミナーを開催しました

当院組合で、今年度も新型コロナ感染拡大防止対策のため、webにて篠原充彦先生を講師に迎え『ヨシモト式 新感覚の退陣スキル!職場を活性化するツツコミュニケーション』と題してセミナーを開催しました。

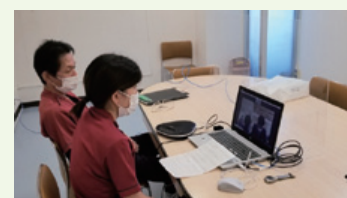
34名の方が参加し、元漫才師の先生が所々に笑いを取り入れ会場は大いに盛り上がりました。セミナーで教わったことを少しでも実践していこうと思います。



## 慶進高等学校とwebを活用し交流会を実施

慶進高等学校の生徒19名と、医師、看護師、薬剤師、理学療法士がオンラインを利用し交流会を行いました。

生徒さんから、“やりがいを感じる時は?” “医療職を目指した理由は?”など活発な質問がありました。



## 「職員研修」テーマ：心も身体も健康に!!

—ストレス解消!! 生き生きと働くためのストレッチ体操—

フィットネスライフY代表 長野 由美子先生によるストレッチ体操や簡易的自己体力測定を行いました。

参加者から“体力が実際の年齢より若かった”と喜ぶ声やこれから体力をつけなくては・・・など和気あいあいとストレッチ体操をしました。

